

曾於市人口ビジョン【概要版】

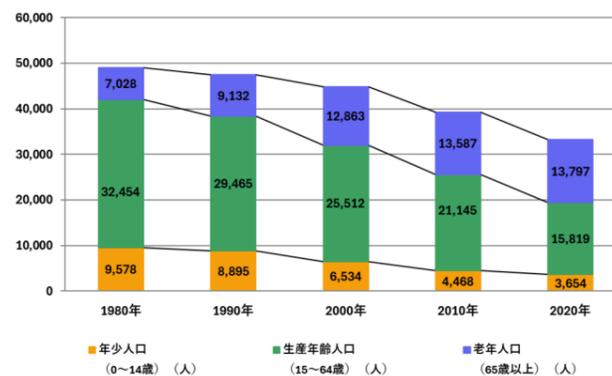
SOO CITY POPULATION VISION (OVERVIEW)



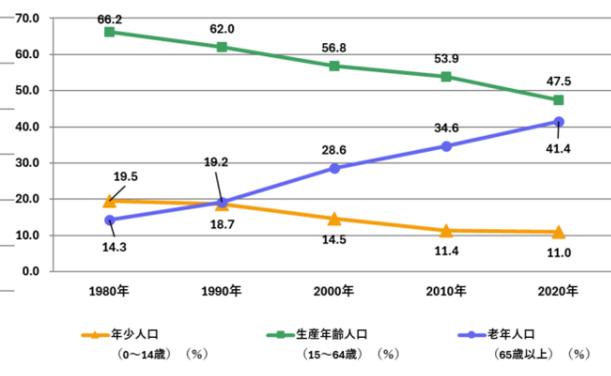
「曾於市人口ビジョン」は、国の「地方創生2.0」や「地方創生に関する総合戦略」を踏まえ、本市のこれまでの人口の推移、今後の人口変化が将来に与える影響について分析・考察を行うとともに、本市が具体的に目指す人口の目標を設定することを目的としています。

01 人口の現状分析

本市の年齢3区分別人口の推移

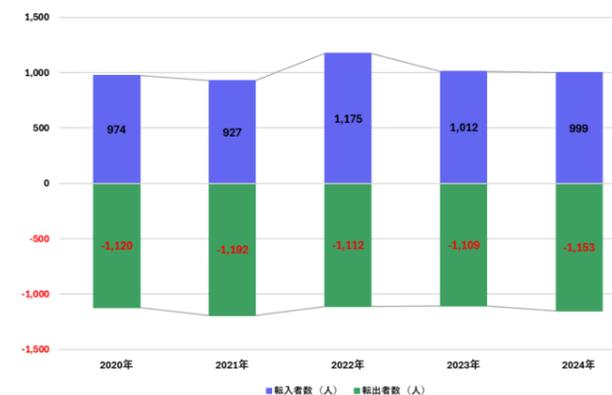


本市の年齢3区分別人口割合の推移



※総務省「国勢調査」、年齢不詳は含まない

本市の転入者及び転出者の推移

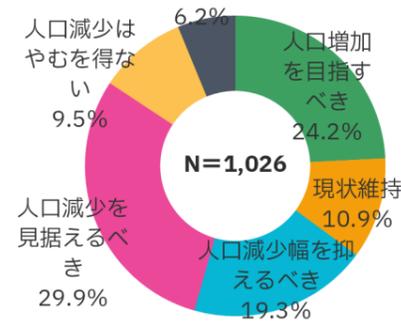


※総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

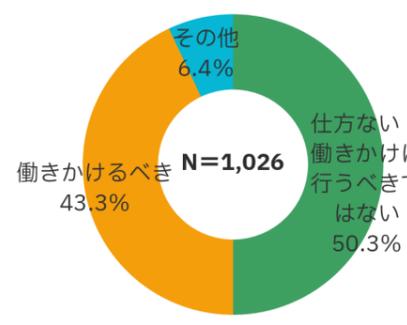
本市人口は「曾於市人口ビジョン」が初めて策定された2015年と比較すると10年間で6,661人減少し、人口減少や少子高齢化は現在も進行しています。本市の場合、「社会減」（転入者数よりも転出者数が多い状態）の中でも若者世代の流出の影響が大きくなっています。今後も人口の急減が進むと地域や社会全体の機能不全が起きる可能性もあり、何らかの対策が必要なほか、近年は本市における外国人人口が増加しており共生に向けた取組みも必要になっています。

02 人口の将来展望

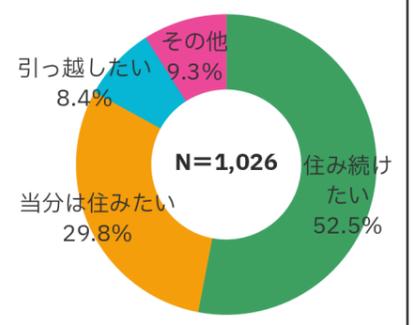
人口減少問題に対する考え方 (問10)



本市を転出した若者への働きかけに対する考え方 (問11)



今後も本市に住み続けたいか (問12)



※本市企画政策課「市民意識調査結果（2024年）」

国立社会保障・人口問題研究所 将来人口推計

2030年：26,891人
2060年：13,279人

独自条件に基づく将来人口推計（目標人口）

2030年：27,124人
2060年：15,220人

本市における人口問題について「市民意識調査結果」を分析したところ、「人口減少を見据えるべき」もしくは「人口減少幅を抑えるべき」と回答した方が多くなっています。一方で回答者の大半は、今後も本市に「住み続けたい」「当分は住みたい」と回答しており、本市としても市民が「曾於市に住んで良かった」と思えるまちづくりをする必要があります。

本市では、「国立社会保障・人口問題研究所」の将来人口推計よりも人口の減少幅を抑える「独自条件に基づく将来人口推計（目標人口）」を設定しその達成を目指すとともに、「曾於市に住んで良かった」と思えるまちづくりに向けた取組を進めます。

03 目指すべき将来の方向

本市では、第3次曾於市総合振興計画における将来像「豊かな大地と 人の絆が 未来につながるまち 曾於」と、各種データ（人口・市民意識調査結果）の分析を踏まえ、「第3期 曾於市まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン・総合戦略）」で実現するビジョンを下記のとおり掲げます。

子どもたちが『また帰りたい』と思い、市民みんなが誇りを持って暮らせるまち

人口が減っても誇れるまち

一度離れても戻りたいまち

暮らしに温かさと希望を感じられるまち

曾於市総合戦略【概要版】

SOO CITY REGIONAL REVITALIZATION STRATEGY (OVERVIEW)



「曾於市総合戦略」では、『曾於市人口ビジョン』で示された取り組みの方向性と目標人口を踏まえ、その実現に向けた具体的な施策「重点プロジェクト」と目標を示します。

01 安心して暮らせるまちを創る



子育て・医療・福祉や交通を充実させることで、住民の安心と健康寿命、地域交流を支え、市民の暮らしの質を高めます。

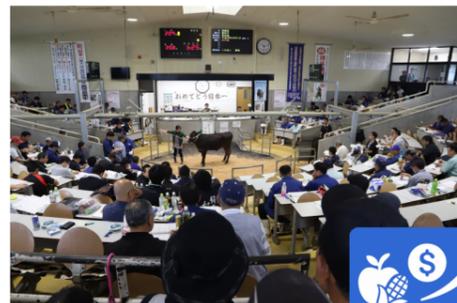
指標の内容	現状値 (R6)	目標値 (R12)
このまちで安心して暮らし続けられると思う市民の割合	82.3%	90.0%以上

主な取り組み

子ども医療費助成の拡充
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進
高齢者がいきいきと暮らす活動支援
地域公共交通網の形成

子育て支援センター

02 地域の資源で稼ぐ力を高める



農林畜産を軸とした地場産品の高付加価値化と企業誘致を進め、地域にお金を循環させ、稼ぐ力と雇用を生み出します。

指標の内容	現状値 (R6)	目標値 (R12)
納税義務者一人あたりの所得額	272.2万円/人	300.0万円/人

主な取り組み

就農希望者・担い手への総合支援
起業・創業の促進と経営支援の充実
雇用創出型企業の立地促進支援
高校生の地元定着促進と企業魅力発信

子牛せり市（曾於中央家畜市場）

03 人と企業が集い、ともに暮らすまちを支える



若者が戻りたいと思える魅力を高め、学びと働く場、移住・交流を促進し、人と企業が交流・循環する地域社会をつくります。

指標の内容	現状値 (R6)	目標値 (R12)
本市の社会増減（転入者数－転出者数）	▲139人	±0人

主な取り組み

移住・定住の促進
移住交流・生活体験の推進
大学連携と地域拠点を活用した交流人口拡大
地域ゆかり人材との連携による魅力発信

南九州畜産獣医学拠点（SKLV）

04 持続可能な未来を支える基盤を整える



デジタルやAI活用とGX・DXの実装で行政効率化と防災力、環境政策を推し進め、持続可能で災害に強いまちを目指します。

指標の内容	現状値 (R6)	目標値 (R12)
行政手続のうち、オンラインで完結できる割合	66.0%	80.0%以上

主な取り組み

ICT・地域メディアを活用した魅力発信
農畜産業のスマート化推進による生産性向上支援
庁内業務の効率化・標準化
非来庁型・スマート申請の促進

市役所本庁（総合窓口）

05 広域的なつながりで価値と活力を広める



鹿児島・宮崎の結節点として周辺自治体と連携し、交通・観光・経済ネットワークと防災協力で広域の価値と活力を高めます。

指標の内容	現状値 (R6)	目標値 (R12)
広域連携による共同事業・共同取組の数	12事業	17事業以上

主な取り組み

定住自立圏構想に基づく広域機能連携の推進
大隅圏域の広域情報発信と連携対体制の強化

都城志布志道路末吉IC